

# 二軸混練押出機 TEX25αⅢ

# DJK

One Stop Satellite  
Laboratories.



## 混練実績

- ・樹脂 : 汎用プラ、PPS、PEEK、反応押出など
- ・フィラー : CF、CB、タルク(最大70 wt%)  
マイカ(最大50 wt%)、GF (最大25 wt%)

## TEX25αⅢを用いた試作の強み

- 小型機ながら高トルク・高速回転対応
- L/D=70を活かした混練試作を提供可能
  - 混練ゾーン多数設置による反応押出
  - サイドベント7ヶ所、トップベント4ヶ所より材料供給位置を選択可能
  - 複数のサイドフィーダ接続による多種材料投入
- SFDを用いた嵩高いフィラーの高充填試作
- シリンダ数が20あるため、細かい温度調節が可能
  - 混練位置や有効L/Dも調整可能

TEX25αⅢ	装置仕様
スクリュ径	Φ26.5 mm
L/D	70
最大トルク	387 N・m
スクリュ回転数	60~960 rpm
混練温度※	60~400 °C
付帯設備	サイドフィーダ 3台 (SFD 1台・TSF 2台) TSV(サイドベントスタッフア) 1台
吐出量	2~25 kg/h
作製量	約2~100 kg/日
樹脂最低必要量	約1.5 kg
同上標準回収量	約0.5 kg

※設定値は最大450°C

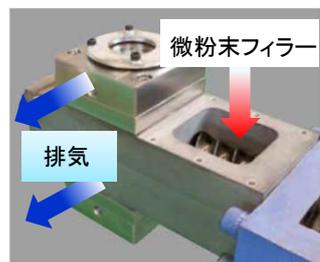


◆有効L/Dや投入位置、バレル温度の細かい調節により、より多種の材料に対応可能

## SFD(脱ガス機構付きサイドフィーダ)

嵩密度の小さい微粒子フィラーの投入に適したフィーダ

原料中に巻き込まれた空気を取り除くための排気ポンプが接続されており、SFD内で原料の高嵩密度化が可能



実績例

PC/タルク  
・TSF: 100 rpmで2.5 kg/h  
・SFD: 100 rpmで12.5 kg/h  
処理量が約5倍に！！

50 wt%  
60 wt%  
70 wt%

添加量も約70 wt%  
混練可能

## その他の特徴

- ・TSV(サイドベントスタッフア)の採用による脱気能力向上
- ・30度ねじれニーディングディスク(左)、シールリング(右)



凝集しやすいフィラー(タルク、マイカ等)は、上図のエレメントを組み合わせることで、より強い分散効果が期待できる